

# 国際バカロレアにおける言語プログラムの改革—その2

岡 崎 眸 (日本語・日本事情)

## 4. Ab initio Japanese program

言語プログラム改革の一方の中心は先に見たように語学Aと言われるグループ1の言語にあった。本稿では他方の中心である、語学Bといわれるグループ2の言語、特にその中でも動きの大きい日本語について見ていく。

### (1) 現行のAb initio Japaneseプログラムの評価

日本語においては、既に1986年から語学Bの下級レベルをAb initioという名称に切り替え、同時に内容も大きく変えて、今回のプログラム改革に先鞭をつけてきた。しかしながら、現行のAb initio Japaneseのプログラムに問題がないわけではなく、言語のプログラム全体の見直しの中で現行のAb initio Japaneseも改革の対象とされ、既に改革案も提出されている。出された具体的な改革案を見る前に、現行のAb initio Japaneseの特徴及び問題点をまず検討しよう。

#### (1.1) 現行のAb initio Japaneseプログラムの特徴

Ab initio導入以前の語学B日本語の下級レベルとそれに代わった現行のAb initioの使用テキストを比較してみると、現行のプログラムの特徴が明らかになる。以下がIB本部から指示されたテキストである。

1985年までの 語学B 下級レベル 日本語

下記AかBかCを選択

A. 次のテキストから二つを選択

伊藤左千夫「野菊の墓」

志賀 直哉「城岬にて」

太宰 治「走れメロス」

芥川竜之介「くもの糸」, 「鼻」, 「羅生門」

遠藤 周作「海と毒薬」

川端 康成「伊豆の踊り子」  
 壺井 栄「母のない子と子のない母と」  
 宮沢 賢治「風の又三郎」  
 尾崎 一雄「虫のいろいろ」  
 小島 信夫「アメリカンスクールと小銃」  
 国木田独歩「忘れぬ人々」  
 林 芙美子「ふきんとさかなの町」, 「なき虫小僧」  
 室生 犀星「幼年時代」  
 小泉 八雲：3つの物語を選択  
 武者小路実篤「友情」  
 宮沢 賢治「銀河鉄道の夜」  
 北 杠夫「ドクトルマンボー航海記」  
 有島 武郎「生まれいずる悩み」  
 星 新一「ぼくちゃん」(他10編)  
 山本 有三「路傍の石」

B. 上のリストから1つ選択及び上級レベルのセクションBからとった生活文化のトピック一つ

C. 上級レベルのセクションBからとった生活文化のトピックを二つ。

注：生活文化のトピック（語学B上級レベルのセクションB）は以下の通りである。

1. 現在日本とアジア
2. 日本の教育制度
3. 日本の経済成長
4. 伝統的な生活と現在の生活
5. 日本における公害問題
6. 日本におけるハイテクノロジー
7. 日本の自然資源
8. 日本の外交政策
9. 日本の若者文化
10. 日本の宗教—過去と現在
11. 学校独自（IB部の承認が必要）

1986年 語学B 下級レベル (Ab initio) 日本語

下記AかBを選択

A. 二つの教科書の学習。但し、一をグループAから選択した場合にはもう一つはグループBから選択すること。

グループA Japanese Now Vols.1 and 2.  
Japanese Book 1, and Book 2.

グループB Japanese for Today  
An Introduction to Modern Japanese (IMJ)  
Nihongo Shoho (日本語初歩)

B. グループBから一つ、及び上級レベルのセクションBの生活と文化のトピックから一つの選択。Japanese for Todayを後者の参考文献として使っても可。

更に（A, Bの何れを選択しても）決められた300字の漢字が読めなければならない。書ける必要はない。

両者を比較して明らかなことは、Ab initioになって大きく変化した点として、第一に、従来の下級レベルのシラバスから文学観賞的分野が完全に取り除かれ、その結果「文法」と「文化」の二本立てとなっていることである。これは従来のいわば「母語教育」から一步「外国語教育」へ踏み出したものとして評価されるだろう。第二に、テキストの選択肢を予めIB本部から与えてその中から各学校に選択させるという形式自体は従来と変わらないが、各学校による選択の幅が極端に小さくなり殆ど本部指定となっている点が挙げられる。これはカリキュラムの統一化を内容的にも保証することを目指したものとして注目される点である。

従来のプログラムとも共通し、かつ全体のプログラム改革との関係で現在検討課題とされている点が三点ある。第一は、実際のカリキュラムがIB本部が年一回実施する資格試験から逆に規定される形で作成されていることである。言い換えれば、受験予備校とのアナロジーをするなら、受験予備校においては目標大学の入試問題の分析に基づく傾向と対策がカリキュラムの基本に据えられるのと同様に、IBにおいては本部が行う試験が到達目標以下のカリキュラムを与える形になっていると言える。

第二は、第一とも関連するが、日本の小中学校あるいは高校においてカリキュラム決定及びその実施に大きな力を持っている学習指導要領や指導書に当たるものが存在しない点と同時に他方担当する教師の力量に一切がかかってくるといふ問題を孕むこととなる。

第三は、評価の問題である。評価は、現在、担当教師による内部評価、外部のexaminerによる筆記試験、そして外部の面接官による口頭試験の三者の評価を総合してIB本部で行われている。担当教師による内部評価は、具体的な項目を挙げて実際担当している教師が行う。筆記試験の問題は、外部で統一して作成され、採点も同様である。内容は簡単な文法問題、及び作文である。

口頭試験は各学校単位で外部から試験官が来て実施される。インタビューの形式をとっているが、内容は、受講者が実際に授業の中で学習した「生活と文化」から題材をとり、会話及び音読が軸となっている。具体

的には、試験前に予め各学校からIB本部にたとえばJapanese for Todayのこれこれのレッスンをカバーしたから、これこれのような問題を作って受講者にインタビューしてくれといった要望を提出する。すると、IB本部はそれらの要望に沿う形で試験を行う形になっている。現場の声によると、口頭試験の後、受験者は大体の場合よくできたと満足気にインタビューを終わるそうである。この反応は、たとえば受験者のproficiency levelを認定するという目的で行われるACTFLの口頭試験とは対照的である。ACTFLの口頭試験においては、言語を使って簡単にできるとどう頑張ってもできないことを明らかにすることによって言語能力のレベルの確定がなされるという考えからインタビューが行われるので、受験者の受ける苦痛も相当なもので、多くの受験者が終わった直後は文字通り疲労の極に達するというのが通常であるからである。

#### (1. 2) 現行のAb initio Japaneseの問題

文学観賞的分野を除いたという点では、語学Bという「第二言語」としての言語教育に一步近づいたという点で評価できるであろう。しかし、150時間の教室での学習で到達するというには依然として教授内容のレベルが高過ぎ、その意味での妥当性が低いという問題点が残る。また、欧米系の学習者の負担は他の語学Bの言語を選択した場合と比べてこれまた依然として重く、スペイン語やフランス語などといった言語プログラムとの対比性が低い点も問題点として残る。

インド=ヨーロッパ語系の言語を母語とする学習者にとっての、日本語など同系列に属さない言語の習得の困難さは一般的な想像を超えるものがある。下の表は英語を母語とする学習者が一定期間内に平均的に期待できる達成目標を言語別の一覧表にしたもので、アメリカのFSI (Foreign Service Institute) で作成されたものである(注1)。

Expected Levels of speaking proficiency in languages  
taught at the Foreign Service Institute (1982)

group 1. (Afrikaans, Danish, Dutch, Haitian Creole, Italian, Norwegian, Portuguese, Romanian, Spanish, Swahili, Swedish)

期間	最低	平均	最高
8週間(120時間)	1	1/1+	1+
16週間(240時間)	1+	2	2+
24週間(480時間)	2	2+	3

group 2. (Bulgarian, Dari, Farsi, German, Greek, Hindi, Indonesian, Urdu)

期間	最低	平均	最高
16週間(480時間)	1	1/2	1+/2+
24週間(720時間)	1+	2	2+/3
44週間(1,320時間)	2/2+	2+/3	3/3+

group 3. (Amharic, Bengali, Burmese, Czech, Finnish, Hebrew, Hungarian, Khmer, Lao, Nepali, Filipino, Polish, Russian, Sinhala, Thai, Tamil, Turkish, Vietnamese)

期間	最低	平均	最高
16週間(480時間)	0	1	1/1+
24週間(720時間)	1+	2	2/2+
44週間(1,320時間)	2	2+	3

group 4. (Arabic, Chinese, Japanese, Korean)

期間	最低	平均	最高
16週間(480時間)	0+	1	1
24週間(720時間)	1	1+	2
44週間(1,320時間)	1+	2	2+
88週間(2,400-2,760時間)	2+	3	3+

表中の数字は以下に見られるように言語能力の各レベルを表し（注2）言語能力ゼロとその言語のネイティブスピーカーの持つ言語能力の間に4段階設けたものである。

0 言語能力ゼロ		
0+ 初級	初歩的な項目が多少話せる	句／単語単位
1-1+ 中級	サバイバル可 基本的な生活ができる	文単位 事実のみ
2-2+ 上級	職業生活が可能となる こみいった状況への対処ができる	段落単位 事実のみ
3-3+ 超上級	敬語や抽象的話題が扱える スムーズな談話	談話単位 仮定も
ネイティブスピーカー		

この表から分かることは、ヨーロッパ系言語を母語とする者にとってスペイン語なら24週間の集中的な学習で職業生活が可能程度の言語能力が獲得できるのに対し、日本語ではその倍の44週間もかかるということである。身のまわりのちょっとした用を足すぐらいの言語能力の場合にも、スペイン語なら8週間で可能なのに対し、日本語では3倍の24週間かかるのである。日本語では、8週間、つまり120時間の学習では言語能力はゼロの段階を超えることが難しく、12週間、つまり240時間勉強してようやくゼロを超え、身の周りの基本的な用が日本語で足せるという1（つまり中級）の段階に入るのである。Ab initioに与えられた授業時間は150時間である。

したがって、この表から見る限り、アメリカ人受講生やイギリス人受講生などの英語話者にとっては先に見たように文学観賞の分野を除いたAb initioであっても、現行のままではただただ歯がたたない困難なものとしてしか存在していないと言えよう（注3）。

第二に、Ab initioでは教科書を合計5冊指定しその中から選択させていることから内容的に教授内容を統一する方向にあると言えるが、それでもいわゆる学習指導要領や指導書のようなものが存在せず、年一度の資格試験が各教師に到達目標を与えるような現状の方式では、加盟学校間の格差を温存しIBとしての統一プログラムを維持することは困難（信頼性が低

い) であるという問題が残る。

## (2) 新しいAb initio B Japanese programの提案

このような問題の根本的な解決を目指して、89年10月にさらなる改革案が提出された。

### (2.1) 新しいAb initio B Japanese programの内容

その具体的な内容を、第一、受講者のニーズをどう把握しているか、第二、改革プログラムの実施手順はどうなっているか、第三、プログラムの概要はどうなっているか、の順でみていく。

第一に、受講者ニーズは以下のように二つの点から把握されている。

- (1) 語学Bをインドネシア語や日本語、中国語などで取り、かつ、よい評価を得てdiploma (修了証) を取得したい。
- (2) インドネシア語や、日本語、中国語などの新しい外国語に挑戦してみたい。

つまり、受講者を一部の語学センスに優れた者に限定することなく多くの受講者を対象とし、同時に一定時間を日本語学習にかければそれなりの成績を上げられるようなコースがAb initioとして考えられていることが分かる。

第二に、Ab initio B Subsidiary levelを以下のように規定して日本語に限らず他の幾つかの言語においても設置することを求めている。

外国語として150時間の基本的に教室においてのみの学習で到達できるレベルを幾つかの言語においてAb initio B Subsidiary levelとして設置する。この実施は、段階的に行う。

第一段階：中国語、日本語、インドネシア語。1991年秋から導入。

第二段階：アラビア語、ロシア語、スペイン語。1992年か1993年秋に導入。

これは、Ab initioを日本語に限らずヨーロッパ語系でない他の言語においても置くことで将来的に増えていくであろう受講者のニーズに応えようという姿勢が見られる。

第三に、Ab initio Japaneseのプログラムの概要は以下のものとする。以下は90年秋のワークショップで提起されたものである。

- A. 対象受講者：1. 日本語学習の経験のない者。  
2. 第二、第三の外国語学習を欲す者。
- B. 目的：1. 当該言語による伝達能力の養成  
2. 文化的知識の理解  
3. 更なる言語学習への基盤作り
- C. 評価基準：1. 読み書き／口頭によって意志伝達ができるか。  
2. 一般的な日常生活上の諸問題を言語で解決できるか。  
3. その言語が使われている国の文化についての知識・理解があるか。

D. アウトライン

1. 言語：基本的な4技能を使っての伝達を可能とする言語能力。  
口頭能力に焦点をおく。

listening (聴く) とspeaking (話す)：

- a. 自然な話し言葉を沢山聞かされる。  
b. シラバスにリストされたトピックについて単純な会話ができる。

reading (読む) and writing (書く)：

- c. シラバスにリストされたトピックについての簡単な文章の理解。その言語が話されている国において日常生活を営む上で要求される簡単な標識や注意書きの理解。  
d. シラバスにリストされたトピックについて簡単なメモや文章を書く。

2. 文化

シラバスにリストされたトピックと関連する文化的側面を学習する。

3. シラバス (トピック)



1. 自分, 家, 家族, 友人の描写
2. 季節と天気
3. 買い物
4. 時間と時
5. 身近な用を足す
6. 余暇
7. 健康
8. 学校生活
9. 休日と旅行
10. 将来の計画
11. 緊急事態

#### E. 評価

内部評価と外部評価を50%ずつとする。

内部評価：50%    口頭    a. 聴解    b. 会話

外部評価：

15%：コースワーク（受講者の自由選択による。文化的側面に焦点を絞って日本語で書く）

35%：書き（written work）

- a. linguistic paper（言語学的なトピックによる小論文）
- b. composition（作文）
- c. 与えられたものに基づいた書きのタスク

#### （2. 2）新しいAb initio B Japanese programの内容

1. 2で見た問題の解決策としては、1. 到達目標、2. アウトライン（言語及び文化）、3. 評価の各領域について詳細に提示することによって、プログラムとしての妥当性及び信頼性の確保を目指していると言える。また、ネイティブスピーカーの履修を明確に外す（これによって言語プログラム間の対比性が確保される）。と同時に語学Aの改善によって、従来語学Bに流れて来ていたネイティブスピーカーに第二の語学Aを取らせる

形を追求し、そうすることによってそれらの受講者のニーズにも対応しようとしていると言えよう。

しかしながら、この改革案をめぐっても様々の問題がある。一つはIB本部から提出されている「言語のプログラムを横断した統一目標の設定」に見られるように、未だにヨーロッパ語系を母語とする学習者が日本語、中国語などのヨーロッパ語系に入らない言語を学習する場合の学習負担の問題がIB本部の視野に十分に入っているとは言えない問題である。

言語のプログラム改革という大きな動きの中で、プログラムの信頼性を確保することを目指して「どの言語のプログラムにも共通した達成目標を」という点がともすれば従来にも増して強調されがちである。実際、改革案をめぐる討論の中で（90年の秋に東京で開かれた言語Bグループのワークショップ）IB本部から出された統一目標に対してフランス語やスペイン語などのヨーロッパ語系の教師グループが賛成したのに対し、日本語の教師グループからは目標が高すぎるとして修正が求められたりしたということである。（注4）

異なる言語のプログラムを統一的に対等に扱うというのは、それらに機械的に同一の達成目標を与えるというのであってはならないだろう。150時間あるいは240時間という授業時間から逆に学習内容を決定し、受講者の学習負担に焦点を当て、ゼロから始めた受講者がその授業時間の中で達成できる内容を達成目標とすることでなければならない。したがって、結果的には言語間で異なったレベルの目標を設定するという状況を認めることがあってもよい。むしろ、そのような選択肢がとられて初めてこの問題の本質的な解決が図られると思われる。

さらに、議論を一歩進めて、フランス語やドイツ語などのプログラムと異なる日本語独自の達成目標を作ることに全体的な合意が得られたとしても、日本語を日本国内で学習する場合と海外で学習する場合とでは学習内容や学習目標に大きい差が出て来るという問題が予想される。たとえば、国内の受講者の場合は普段の日常生活で目にし耳にする日本語の言語資料が圧倒的に多いことから、海外の受講者と比べて少ない学習時間で多くの

ものを学習することが基本的に可能である。またこのような量的相違のみならず、受講者が必要と考える学習項目あるいは言葉を使って行うタスク（課題）においても両者の間には大きい隔たりがあるだろうことは想像に難くない。したがって、漢字を幾つ必修にするかという問題に端的に表現されている問題はもっと奥が深いと言える。

このような違いを前提にして、同じ日本語のプログラムであっても、海外及び国内で達成目標の具体的項目に差を設けるのかどうか論議になるところであろう。学習する者を出発点としようという現在の語学教育の基本的流れに即して考えるならこの問題にはむしろ積極的に関わらべきという線がでてくると思われる。

また、ネイティブスピーカーの履修を認めないと言っても、ある受講者が特定の言語のネイティブスピーカーかそうでないかを判断するにはかなりの困難が伴うことは先に見た通りである。

改革案の実施は更なる困難を伴っている。それはこの改革案が提出されて以降現在までの取り組みの状況からも推測される（注5）。提出されたプログラムは従来のものから内容的にいわば180度転換している。具体的には：

- (1) 到達目標を「伝達能力の養成」に置いて、その言語が使われている環境で言語を使って機能できることを基本的な学習目標とする。従来のAb initioにおいては基礎的な文法知識の理解に重点が置かれていたことと比べると目標自体が大きく変わったと言える。
- (2) 言語資料を「自然に話されている言葉」と身の周りにあるサインや標識に求めている。漢字を必須から外す。従来は初級向けに書き直された教科書用の言葉及び300字の漢字の学習であった。
- (3) 学習活動が「問題解決型学習」になっている。従来は言語を使って何かをするのではなく、言語の形を練習すればそれで終わりであり、言語練習そのものが目的とされた。

このような教育内容・方法における180度の転換は、教師のみでなく受講者にとっても大問題であり、無理なく現場に導入するためには様々の工夫

が重要であると思われる。具体的には以下のようなことが当面必要になるだろうと思われる。

- (1) 150時間で経験ゼロの学習者に教授可能な学習内容の更なる吟味と、その具体的な形を提出する。骨子は先に紹介した改革案においてアウトラインとして提出されているが、具体的なもの（テキストブックやタスクブック等）はまだ出されていない。アウトラインのみ出して後は現場の教師に任せるという形にした場合は、統一的なプログラムを与えることにならない。
- (2) 教師研修の必要性  
文法知識の詰め込みに焦点をおいて教えて来た教師にとって、この転換は易しい仕事ではない。しかも、現場では教師のスケジュールはかなり過密であり（一日平均5時間の授業）、自己研修の時間は殆ど取れない実情のようである。
- (3) 語学B上級レベルも併せて改革の必要がある。将来的には現在の語学B上級レベルは語学Aの5か6のコースに移行するのが妥当ではないだろうか。

## 5. 結びに

今回のIBの言語プログラムの改革は、Ab initio Japanese改革案一つをとってみてもその産みの苦しみは我々外部の者の想像を絶するものがある。しかしながら、それだけにこの改革案の実施に向けての取り組みは、その成果のみならず、一つ一つの過程が、真に学習者のニーズに基づいた、現実的な第二言語教育のプログラムの創造に関心を持つ日本語教師に測り知れない教訓を与えよう。

### 注

1. Omagio p.21からの引用である。
2. ACTFL Proficiency Guidelinesを簡略化してまとめたものである。どの言語にも通用するとされるGenericと合わせて各言語別、四技能別に細かく規定されている。以下にGenericのSpeakingのGuidelineを例として挙げる。

## Provisional Generic Descriptions-Speaking

- Novice-Low Unable to function in the spoken language. Oral production is limited to occasional isolated words. Essentially no communicative ability
- Novice-Mid Able to operate only in a very limited capacity within very predictable areas of need. Vocabulary limited to that necessary to express simple elementary needs and basic courtesy formulae. Syntax is fragmented, inflections and word endings frequently omitted, confused or distorted and the majority of utterances consist of isolated words or short formulae. Utterances rarely consist of more than two or three words and are marked by frequent long pauses and repetition of an interlocutor's words. Pronunciation is frequently unintelligible and is strongly influenced by first language. Can be understood only with difficulty, even by persons such as teachers who are used to speaking with non-native speakers or in interactions where the context strongly supports the utterance
- Novice-High Able to satisfy immediate needs using learned utterances. Can ask questions or make statements with reasonable accuracy only where this involves short memorized utterances or formulae. There is no real autonomy of expression, although there may be some emerging signs of spontaneity and flexibility. There is a slight increase in utterance length but frequent long pauses and repetition of interlocutor's words still occur. Most utterances are telegraphic and word endings are often omitted, confused or distorted. Vocabulary is limited to areas of immediate survival needs. Can differentiate most phonemes when produced in isolation but when they are combined in words or groups of words, errors are frequent and, even with repetition, may severely inhibit communication even with persons used to dealing with such learners. Little development in stress and intonation is evident.
- Intermediate-Low Able to satisfy basic survival needs and minimum courtesy requirements. In areas of immediate need or on very familiar topics, can ask and answer simple questions, initiate and respond to simple statements, and maintain very simple face-to-face conversations. When asked to do so, is able to formulate some questions with limited constructions and much inaccuracy. Almost every utterance contains fractured syntax and other grammatical errors. Vocabulary inadequate to express anything but the most elementary needs. Strong interference from native language occurs in articulation, stress and intonation. Misunderstandings frequently arise from limited vocabulary and grammar and erroneous phonology but, with repetition, can generally be understood by native speakers in regular contact with foreigners attempting to speak their language. Little precision in information conveyed owing to tentative state of grammatical development and little or no use of modifiers.

- Intermediate-Mid     Able to satisfy some survival needs and some limited social demands, Is able to formulate some questions when asked to do so. Vocabulary permits discussion of topics beyond basic survival needs such as personal history and leisure time activities. Some evidence of grammatical accuracy in basic constructions, for example, subject-verb agreement, noun-agreement, some notion of inflection.
- Intermediate-High    Able to satisfy most survival needs and limited social demands. Shows some spontaneity in language production but fluency is very uneven. Can initiate and sustain a general conversation but has little understanding of the social conventions of conversation. Developing flexibility in a range of circumstances beyond immediate survival needs. Limited vocabulary range necessitates much hesitation and circumlocution. The commoner tense forms occur but errors are frequent in formation and selection. Can use most question forms. While some word order is established, errors still occur still occur in more complex patterns. Cannot sustain coherent structures in longer utterances or unfamiliar situations. Ability to describe and give precise information is limited. Aware of basic cohesive features such as pronouns and verb inflections, but many are unreliable, especially if less immediate in reference. Extended discourse is largely a series of short, discrete utterances. Articulation is comprehensible to native speakers used to dealing with foreigners, and can combine most phonemes with reasonable comprehensibility, but still has difficulty in producing certain sounds, in certain positions, or in certain combinations, and speech will usually be labored. Still has to repeat utterances frequently to be understood by the general public. Able to produce some narration in either past or future.
- Advanced             Able to satisfy routine social demands and limited work requirements. Can handle with confidence but not with facility most social situations including introductions and casual conversations about current events, as well as work, family, and autobiographical information; can handle limited work requirements, needing help in handling any complications or difficulties. Has a speaking vocabulary sufficient to respond simply with some circumlocution; accent, though often quite faulty, is intelligible; can usually handle elementary constructions quite accurately but does not have thorough or confident control of the grammar.
- Advanced Plus        Able to satisfy most work requirements and show some ability to communicate on concrete topics relating to particular interests and special fields of competence. Generally strong in either grammar or vocabulary, but not in both. Weaknesses or unevenness in one of the foregoing or in pronunciation result in occasional miscommunication. Areas of weakness range from simple constructions such as plurals, articles, prepositions, and

negatives to more complex structures such as tense usage, passive constructions, word order, and relative clauses. Normally controls general vocabulary with some groping for everyday vocabulary still evident. Often shows remarkable fluency and ease of speech, but under tension or pressure language may break down.

## Superior

Able to speak the language with sufficient structural accuracy and vocabulary to participate effectively in most formal and informal conversations on practical, social, and professional topics. Can discuss particular interests and special fields of competence with reasonable ease. Vocabulary is broad enough that speaker rarely has to grope for a word; accent may be obviously foreign; control of grammar good; errors virtually never interfere with understanding and rarely disturb the native speaker.

## Provisional Generic Descriptions—Listening

## Novice—Low

No practical understanding of the spoken language. Understanding limited to occasional isolated words, such as cognates, borrowed words, and high frequency social conventions. Essentially no ability to comprehend even short utterances.

## Novice—Mid

Sufficient comprehension to understand some memorized words within predictable areas of need. Vocabulary for comprehension limited to simple elementary needs and basic courtesy formulae. Utterances understood rarely exceed more than two or three words at a time and ability to understand is characterized by long pauses for assimilation and by repeated requests on the listener's part for repetition, and / or a slower rate of speech. Confuses words that sound similar.

## Novice—High

Sufficient comprehension to understand a number of memorized utterances in areas of immediate need. Comprehends slightly longer utterances in situations where the context aids understanding, such as at the table, in a restaurant / store, in a train / bus. Phrases recognized have for the most part been memorized. Comprehends vocabulary common to daily needs. Comprehends simple questions / statements about family members, age, address, weather, time, daily activities and interests. Misunderstandings arise from failure to perceive critical sounds or endings. Understands even standard speech with difficulty but gets some main ideas. Often requires repetition and / or a slowed rate of speed for comprehension, even when listening to persons such as teachers who are used to speaking with non-natives.

## Intermediate—Low

Sufficient comprehension to understand utterances about basic survival needs, minimum courtesy and travel requirements. In areas of immediate or on very familiar topics, can understand non-memorized material, such as simple questions and answers, statements, and face-to-face conversations in the standard language. Comprehension areas include basic needs: meals,

- lodging, transportation, time, simple instructions (e.g., route directions) and routine commands (e.g., from customs officials, police) Understands main ideas. Misunderstandings frequently arise from lack of vocabulary or faulty processing of syntactic information often caused by strong interference from the native language or by the imperfect and partial acquisition of the target grammar
- Intermediate—Mid Sufficient comprehension to understand simple conversations about some survival needs and some limited social conventions. Vocabulary permits understanding of topics beyond basic survival needs such as personal history leisure time activities. Evidence of understanding basic constructions, for example, subject-verb agreement, noun-adjective agreement; evidence that some inflection is understood.
- Intermediate—High Sufficient comprehension to understand short conversations about most survival needs and limited social conventions. Increasingly able to understand topics beyond immediate survival needs. Shows spontaneity in understanding, but speed and consistency of understanding uneven. Limited vocabulary range necessitates repetition for understanding. Understands commoner tense forms and some word order patterns, including most question forms, but miscommunication still occurs with more complex patterns. Can get the gist of conversations, but cannot sustain comprehension in longer utterances or in unfamiliar situations. Understanding of descriptions and detailed information is limited. Aware of basic cohesive features such as pronouns and verb inflections, but many are unreliably understood, especially if other material intervenes. Understanding is largely limited to a series of short, discrete utterances. Still has to ask for utterances to be repeated. Some ability to understand the facts.

3. もちろん、日本語学習の困難さは日本語の一般的な特性ではない。中国語やハンダ語を母語とする学習者については、統計は出ていないけれども経験的には、英語を母語とする学習者にたとえばスペイン語が易しいように、日本語は易しいと言えそうである。但し、IBで現在問題になっているのは、数の上で多数を占めるヨーロッパ系言語を母語とする学習者による日本語、中国語等の学習なので当面は問題にならない。が、今後IBの認知が更に地理的に拡大していけば学習者の母語と学習言語との関係は多岐に渡りより複雑な問題として出て来るであろう。

4. 1991年10月に持たれた語学Bのワークショップでは横並びの達成目標の設定をめぐって白熱した論議があり、IB本部から出された目標に対して日本語



教師グループからは以下のような修正案が出されたということである。数字は達成レベルを表す。本文で使用したのとは異なるレベル表 (The English-speaking union's nine-level scale) を用いているので数字をそのまま比較することはできない。

	IB本部提出の目標	修正案 (日本語)
語学A 1, A 2	4. 5-9	
語学B上級	4. 5-7. 5	4. 5-6
語学B下級	3. 5-6. 5	2-5
Ab initio	1-3. 5	1-2. 5

5. 91年実施がパイロット校でまず試行してからというようになって来たことに見られるように改革の全面実施にはまだまだ時間がかかりそうである。

#### 参考文献

- Brendaa J. C. Report on I B. O Language 'B' Workshops in Tokyo and Pattaya. 1990,11.
- Goddban, J. A Proppsal for the development of Ab initio Subsidiary level language programmes 1989 11
- Omagiio, A. C Teaching Language in Context. Heinle & Heinle Publishers, Inc. 1986
- Peel, R. M International Baccalaureate revised programme in Languages 1986 12
- Ueno, T. Handouts in IBAS Ab initio workshop and extention workshop. 1999. 10.